

ま え が き

ここに、令和3年版宮城県統計年鑑を刊行いたします。

この年鑑は、明治18年に「宮城県統計書」として刊行され、昭和24年から「宮城県統計総覧」、昭和53年から「宮城県統計年鑑」と改題しながら、130余年の長い歴史を持つ総合統計書として、本県の人口、社会、経済、教育、文化など、各分野にわたる基本的な統計資料を幅広く収録し、本県の現状と推移を明らかにしたものです。

我が国の少子高齢化や人口減少、世界の政治、経済社会構造の変化など、我が国をとりまく情勢は大きく変動しています。

本県においては、東日本大震災から10年が経過し、ハード面の復興は概ね完了しましたが、被災された方々の心のケア等ソフト面の課題が残っております。また、県民生活にも大きな影響を与えている新型コロナウイルス感染症への対応などの課題にも直面しております。このため、来年度は「新型コロナウイルス感染拡大防止対策と社会経済活動の両立」をはじめとする6つの政策推進の基本方向を掲げ、新型コロナウイルス感染症対策や復興完了に向けた施策に力を入れるとともに、特に、デジタル技術を様々な分野で最大限に活用しながら、県民サービスの向上や県内産業の活性化、働き方改革の推進を図ることとし、若者の県内定着や子ども・子育てを社会全体で支える環境の整備、外国人材の受入推進に取り組んでまいります。

これらの取組に係る多くの事業において、様々な統計が、政策立案のための現状や課題の把握及び事業の進捗状況の確認、効果の検証、さらには将来の予測などの基礎資料として広範に活用されているところです。

この年鑑は、「県民の共有財産」という視点で各種の統計調査を取りまとめたものであり、経済活動や教育・学術研究など、県民の皆様の情報基盤として広く御活用いただければ幸いと存じます。

結びに、本書の刊行に当たりまして、貴重な資料を御提供いただきました各機関及び関係者の皆様に、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層の御協力を賜りますようお願いいたします。

令和4年3月

宮城県知事 村 井 嘉 浩